

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Acute ethanol toxicity from ingesting mouthwash in children younger than age 6, 1989-2003. 6歳未満の小児における、うがい薬服用の急性アルコール中毒についての研究、1989-2003.	
<b>執筆者</b>	
Massey CC, Shulman JD.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Pediatr Dent. 2006 Sep-Oct;28(5):405-9.	
<b>キーワード</b>	
中毒、アルコール中毒、小児、うがい薬	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 本研究の目的は American Association of Poison Control Centers の報告から、6歳未満の小児のうがい薬 (口腔洗浄薬) の過量摂取が疑われる症例を分析することと、1995年に Consumer Product Safety Commission (CPSC)が、3g 以上のエタノールを含むうがい薬には子供が使いにくい (child-resistant な) 包装を求めたが、その効果についても検討する。</p> <p><b>方法：</b> 5%点、50%点、95%点をもって、体重あたりのエタノール摂取量を計算した。また体重あたりの有害事象、致死事象が起こりうるエタノール量も規定した。本研究では 1989-1996 年までの前期と 1996-2003 年までの後期に分けて分析した。</p> <p><b>結果：</b> 過量摂取の発症率は、1991年の 12.7/10 万人から 1996年の 20.7/10 万人まで上昇した。CPSC の勧告後、2001年にかけて 16.8/10 万人まで減少。2003年はやや増の 17.9/10 万人であった。</p> <p><b>結論：</b> 本研究から CPSC の定めた規則、3g 以上のエタノールを含むものについては子供が使いにくい (child-resistant な) 包装を要求する、はうがい薬の過量摂取を減らすことに成功した。健康関連職種に就くものは、更に積極的に子供たちの親に対し、エタノールを含有するうがい薬過量摂取の害について情報を提供するべきであろう。製造業者はもっとはっきりと高エタノール含有の害を表示するべきであり、また高濃度エタノール含有のうがい薬の製造を中止するべきである。また製造業者はうがい薬を大きな容器に入れて販売しないようにするべきである。</p>	